

## 第20回例会 2022.4.13 (水)

■出席率 会員69名中45名出席65.22% 修正50名 72.46%  
メイクアップ5名

### ◆会長挨拶 一條 浩孝 会長

早いもので県北第一分区ガバナー補佐、佐藤宗弘様のご来訪は今日が最後となりました。本来であれば5回ご来訪いただく予定だったのですが、残念ながらマンボウで2回中止となりましたので今日の3回目が最後ということになってしまいました。今日は中止となりました2回分も取り戻すべくスピーチしていただけるものと期待しておりますので、よろしくお願い致します。



さて、先週も例会翌日になりまして例会参加者のなかに陽性の方がいらっしゃった、ということが判明致しました。あれから一週間が経ち会員の皆さんに感染が広がったという

こともなかったようですし、ご本人からも回復されたとのご連絡がございましたので、まずはほっとしているところです。ただこの間「このまま例会を開催していいものか」というご意見も頂戴しておりましたので、この件につきまして再度お話をさせていただきます。例会開催の是非は私たち素人に判断できるものではありません。やはり専門家のいる自治体の判断に沿うことが最も懸命であると思っています。マンボウの中止という判断を行った自治体の狙いは、感染対策を行いながら経済を回してほしいということだと思います。これらのことを踏まえ当クラブとしましては、このまま例会の開催を続けていきたいと考えております。

例会へ参加する意義はスピーチなど例会のプログラムにあることは勿論ですが、それと共にロータリーの仲間との会話も大切な楽しみのひとつだと思っています。マスクをしながら適度な距離を保てば会話を楽しむことが可能とされています。これはリモート開催で

はできないことです。また、感染を防止するために食事を取らない、あるいは持ち帰り弁当にするという方法もあります。ですが、お腹を空かせての例会は楽しくありませんし、黙食とすることで対応が可能です。黙食というルールが守れないから食事をしない、というのではロータリアンとして少し残念なことだと思います。

私事で大変恐縮ですが、ここで私の会社でのお話をさせていただきたいと思います。私の会社には長男が昨年7月に入社し、次男もこの4月から入社する予定となっております。そうした折の3月の中旬、ずっと出展したいと願っていた展示会が予定通り4月6日から開催されるという情報が入ってきました。場所はドイツベルリンです。ドイツと言えば毎日十万人以上もの感染者が出ている国です。しかも現在のヨーロッパはウクライナ情勢もありとても不安定です。そこへ出展しようとするれば、当然ですが誰かを派遣しなければなりません。正直、私も悩みました。悩んだ末に出した答えは次男の入社時期を早めこの展示会に参加させることでした。

なぜそうしたのか。それは、ここにきてコロナ終息の見通しが全くつかなくなってきたからです。コロナを理由に諦めるだけでは未来は開けないと考えました。対策をしながら行動すべき時なのではないかということです。ドイツでは誰一人マスクをしている人はいなかったそうですが、息子はしっかりと対策をしながら展示会に参加し仕事をしてきてくれました。そして陰性のまま帰国し福島にも元気に帰ってきました。帰った翌々日、今度は東京の展示会に向けて出掛けていきました。結果として行かせて本当によかったと思っています。

もちろんこれは私個人の考え方です。ここにいらっしゃる皆さんのなかで心配であれば例会を欠席するというのも、誰に遠慮することなく認められるべきであると思っています。ご自身の判断が最も優先されるからです。そうした上に立って当クラブとしましては、これからも感染対策をしながら例会の開催を続けていきたいと思っています。ご理解いただければと思います。

最後に今日はこの後、渡辺正義会長エレクトから次年度委員会の発表と共に PETS に参加された報告がございます。いよいよ次年度が迫って参りました。駅伝で言えば私はもう自分のタスキに手が届きかけています。あと少し、タスキを間違いなくお渡しできるよう務めて参りたいと思っています。

◆喜寿・古希・還暦の祝い

喜寿・古希・還暦のお祝いがなされました。  
おめでとうございます。

喜寿 武藤 正隆 会員

渡辺 勇 会員

古希 大野 順道 会員

還暦 安斎 常克 会員



## ◆次年度委員会発表

渡邊正義会長エレクトから、次年度の委員会人事の発表と会長エレクトセミナーの報告がありました。

PETSの研修セミナーが3月12日、13日ズームで行われ参加しました。南ロータリーからは大橋パストガバナー、広沢俊樹前ガバナー補佐が出席されていましたが、まず最初にガバナーエレクトの御話があり、次年度RI会長は女性として初めての会長であること、次期年度RIのテーマが「イマジン」である。イマジンとは、「想像する、心に描く、思い浮かべる」の意味があります。三年後、五年後のロータリーの姿を、あり方を思い描くという意味かなと思います。

2022・2023年の地区ロータリー方針は、「情熱(熱い思い)をもって行動し、感動(成果)を共有(共に分かち合う)しよう」です。

第1セクションは佐藤ガバナーエレクトから講和が有り。

優先事項1「より大きなインパクトをもたらす」目標

- 1・ポリオを根絶し、ロータリーの役割を強調する。
- 2・2025年まで恒久基金を20億2500万ドルとし、年次基金とポリオプラスへの寄付を増やす。

優先事項2「参加者の基盤をひろげる」目標

- 1・影響力を持った人びと、目的に基づき行動する人びと、世界を変える行動人を通してのロータリーの国際的な立場を向上させる。
- 2・新しく革新的なクラブや参加を促す経路を新設し、発展させる。
- 3・RI理事会が定めた女性の割合を30%にする目標の達成は2023年6月110か国以上ですすでに達成。30%は50%への足掛かり。

この他にも色々お話がありました。

第2セクション 平井義郎戦略委員長、芳賀 裕地区・クラブ規定委員長

地区管理と運営、クラブ運営と会長の責務という題での講和

第3セクション 1 次期地区研修リーダー 石黒パストガバナー

地区研修委員会の方針と計画という題での講和





- 第3セッション 2 芳賀裕パストガバナー  
地区・クラブ規定委員会の講和
- 第3セッション 3 R L I 委員長 佐藤栄朗  
R L I 委員会の講和
- 第3セッション 4 会員増強拡大委員長 福柁委委員長  
会員増強拡大・DE I
- 5 グループディスカッション

2日にわたり第8セッション迄あり長い2日間でした。その中でホームページについて質問があり、ある会長エレクトはホームページは活用していませんという。なぜならホームページに対する一般の方の閲覧はほとんどなく外に向けたPR方法としては弱いのではないかという意見でした。その意見に対しては賛同者が半数以上いました、では何が有効なのかという問いには皆さん沈黙していましたが、新聞等の媒体がやはり有効ではないかという意見が多くありました。その為には外に向けた活動がもっと必要ではないかという意見でした、奉仕事業を通じて記事にしてもらおうとか、なかなかこれといった結論は出ませんでした、最後にこのPETSに参加して思ったことは自分がこれほどロータリーに対して無知無学だったのかと思い知らされた事です。これからはいろんな会議に出て知識を少しでも吸収しなくてはと強く感じました。

#### ◆ガバナー補佐スピーチ

ガバナー補佐クラブ訪問 「1年を振り返って」

県北第一分区ガバナー補佐 佐藤 宗弘

皆様、こんにちは。今期もあと3ヶ月となり、今回がガバナー補佐としての最終訪問となります。ガバナー補佐として至らぬ点多々あったと思いますが、ロータリーの好意と友情に免じてお許し賜りたいと思います。

新型コロナウイルス感染拡大の中、ガバナー補佐年度を何とか終えることができました。同じ荒波を一緒に越えたクラブ会長・幹事様をはじめとし地区会員の皆様方の温かいご支援とパストガバナー、諸先輩の皆様のご指導、そして地区チームの皆さん、地区スタッフの皆さん、事務局の皆さんのご協力です。コロナ禍、何とかガバナー補佐を務める事ができましたことを心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。あっという間に過ぎ去った過去の思い出が、今、私の頭の中を走馬灯の様に



駆け巡っています。

いやはや何とも、自分の手帳をめくって見ると、2021-22年度はロータリークラブの活動やロータリアンとしての活動が様変わりになっていくのが分かります。各クラブにおかれましても、例会運営や奉仕活動、親睦活動のあり方が変更を余儀なくされたり、発想の転換を図られたり、とにかくこれはやってみようという模索を図られた年回りでありました。各クラブの皆様には様々な制約があった中で、このようにガバナー補佐の役割を果たす上でのご協力をいただけたことに、深く感謝を申し上げる次第です。

私の20年間のロータリアン歴において、ガバナー補佐を務めることで、自クラブ以外の6クラブの例会訪問が出来たのは貴重な経験でした。コロナ感染拡大に対応して各クラブが例会開催方法に尽力される中、訪問形態も多様化しました。例会の開催方法に応じて、通常例会に出席する形・少人数で面談する形・オンラインで会合する形など多様に対応頂きました。コミュニケーションの取り方についてはそれぞれ良い特徴が発見され、多様な形態を工夫することによって本来の目的が達成できることを改めて考えさせられる機会でした。

7月末から8月上旬にかけてのガバナー公式訪問では、各クラブを訪問し、多くの会員の皆様と旧交を温め、またクラブの問題等の話を聞くことが出来ました。各クラブとも多少の問題があるとはいえ、和やかに、またロータリーの目標に向かって進んでいるのが感じられました。各クラブとも大変な歓迎をいただき、また各クラブの会長さんをはじめとし、各役員の皆様に大変お世話になりました。

コロナ禍にあって各クラブでも奉仕活動に大変苦慮した年だったと存じます。地区でも、主な地区行事については、一部を除いて、そのほとんどが中止あるいはWeb開催での実施となりました。コロナ前のように、皆さんと直接に顔を合わせて親睦を深めながら、次年度の計画を語り合うことができない。など、もどかしさは否めませんでした。

これらは、すべて、“新型コロナウイルスのせい”である。と言ってしまえば、簡単ですが、それでは、ロータリークラブは、コロナ禍の環境に適応できなくなります。コロナを停滞でなく、ロータリーにとって新しい世界を切り開くチャンスと、捉えて次年度以降も活動してほしいと思っております。

ロータリーの機会は「であい」から。機会の根幹は「であい」と捉えます。ロータリーメンバーと出会い、相互に高潔性・多様性・リーダーシップを学び、親睦を育み、個の奉仕に繋がるのがクラブの未来構築と考えます。新型コロナウイルスの影響で、非常に厳しい環境下ではございますが、どんなに悔いても過去は変わらず、どれほど心配したところで未来もどうなるものではありません。今、現在に最善を尽くすこと。と松下幸之助は説いていました。今、最善を尽くすことは足元から先の環境を変えることが出来ます。今後も全世界が一丸となり、笑顔溢れるであいを求めて鋭意努力して参りたいと思っております。

結びに、ガバナー補佐という貴重な経験をさせていただき、また素晴らしいロータリアンの皆様に出会えたことに心から感謝致します。「できないこと」を嘆くのではなく、皆で、自由に意見を交わし、知恵を出し合って工夫を重ねることで、「できること」を見出し、希望を抱いて進む。そうした姿勢を学んだ1年でした。

武者小路実篤の名言で「君は君 我は我也 されど仲良き」という言葉がございます。コ



コロナ禍の収束はまだ見えませんが、だからこそ、個性豊かで多様な視点を持つロータリアン、ロータリーファミリーとの絆に恵まれた幸せをかみしめつつ、今後も、各クラブがさらに充実した活動に取り組み、発展されることを心から願っております。ご清聴有り難うございました。

◆次回例会 第21回 2022.4.20

- ・会員スピーチ 21 (黒羽 好夫会員：51年の職業人生を終えて・・・人生にムダはない)
- ・会員スピーチ 22 (野地 利雄会員：私のロータリー感)
- ・会員スピーチ 23 (紺野 仁昭会員：私の仕事)